Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2024-07-03

阪神・淡路大震災の記憶を歴史としてつなぐために

吉川, 圭太

(Citation)
歴史文化をめぐる地域連携協議会予稿集,18:16-27

(Issue Date)
2020-02-02

(Resource Type)
conference object

(Version)
Version of Record

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/81012139

阪神・淡路大震災の記憶を歴史としてつなぐために

神戸大学大学院人文学研究科・吉川圭太

１．震災資料の活用等をめぐるこれまでの主な取り組み（2014 年～）

・2014 年度震災展示「記憶から歴史へ：阪神・淡路大震災を知らない世代の取り組み」
（2014.12.24～2015.1.29@神戸大学附属図書館社会科学系図書館）

・2017 年度震災展示「阪神・淡路大震災をみつめる：大木本美通追悼写真展」
（2018.1.11～2.1@神戸大学附属図書館社会科学系図書館）

＊『阪神・淡路大震災を撮る：大木本美通追悼写真集』の作成発行（2019.3）

＊ 2019 年度震災展示「草の根市民メディアからの発信：「ミニコミ」から問う阪神・淡路大震災」
（2020.1.16～2.4@神戸大学附属図書館社会科学系図書館）

２．写真集『阪神・淡路大震災を撮る』の作成を通して

・大木本美通氏（1937－2017 年）

1961 年から朝日放送神戸支局の放送カメラマン／震災直後から長年にわたり被災地の変遷などをフィルムカメラで撮影／2002 年までの震災記録写真 21,603 枚を神戸大学震災文庫に寄贈／震災 15 年（2005 年）と震災 20 年（2015 年）に被災地神戸を再度撮り歩く（地域連携センターでネガを借用しデジタル化）

・フィルムカメラへのこだわり／詳細な手書きメモ

・放送カメラマンかつ一人の生活者の目を通した被災地の変遷史（≠一般的な定点観測写真）

・写真集編集を通して

震災を直接体験していない人間（私）による編集　　写真選定の難しさ／構成をどうするか

震災「前」の神戸に関する情報・研究の不足

ex）「戦後のジャンジャン市場（現在の神戸マルイがあるあたり）」という書かれ方

※地域の歴史のなかで震災をとらえる視点の重要性／歴史研究としての震災研究

３．学生による震災資料展の制作を通して

2019 年度「草の根市民メディアからの発信：「ミニコミ」から問う阪神・淡路大震災」

・授業（文学部日本史演習・現代史）の一環／阪神・淡路大震災非体験世代の受講生 6 名

・「震災ミニコミ」への着目（個人的な経験と問題関心）

①愛媛資料ネット等との共同による伊方原発反対運動資料の保存・整理作業（2017 年～）

個人・団体発行「ミニコミ」が多数残存／戦後市民運動における「ミニコミ」への関心

②阪神・淡路大震災での「ミニコミ」の簇生（⇔現在のインターネット・SNS の普及）

→「震災ミニコミ」という媒体を通し、戦後の市民活動の流れのなかで阪神・淡路大震災や「ボランティア元年」をとらえ直す

・授業のながれ：文献講読→学生自らによる課題設定／震災資料の調査・研究（震災文庫、人と防災未来センター、震災・まちのアーカイブなど）→展示原稿の作成・推敲

※オーソドックスな歴史研究の手法による震災研究

・「資料」を調べ、読みこむ ⇄ 関係者から話を聴く、街を歩く　　「知識」から「認識」へ

４．おわりに

解　説

吉川 圭太（神戸大学大学院人文学研究科）

｜ はじめに

この写真集は、大木本美通さんが撮り続けた写真のうち、阪神・淡路大震災の記録写真を中心に1冊にまとめたものである。

1961年から朝日放送神戸支局の放送カメラマンをつとめた大木本さんは、テレビカメラを担いで取材に奔走するかたわら、高度経済成長以降の変わりゆく神戸の街や人の姿をフィルムカメラで収めてきた。

そうしたなか、1995年1月17日早朝、兵庫県南部地震が発生した。その朝、大木本さんは戸棚にあったローライ35を手に、須磨区妙法寺の自宅から長田･兵庫を抜け、三宮の職場まで2時間以上をかけて歩いて向かった。建物が倒壊し、至る所で炎と黒煙が立つ只中を歩き、事の全容が把握できないなかでの出勤だった。その道すがら撮られた写真の手ブレは、当時の焦燥や動揺を表している（18～19頁）。

その日以降、大木本さんは取材の一方、通勤時や休日を利用して被災地を丹念に撮り歩いた。その足取りは、「震度7の帯」と呼ばれる淡路から芦屋以東にのびる激甚地帯と重なり、さらに神戸市西区・北区などの仮設住宅が大規模に設置された地区にも及ぶ。膨大な数に上るこれらの震災記録写真は、2002年に神戸大学附属図書館震災文庫へ寄贈された。現在、震災文庫のデジタルギャラリーでは、1995年から2002年までの写真21,603枚が公開されており、インターネットを通して誰でも閲覧できる。

｜ 本写真集の構成

この写真集は3章から成っている。第1章「震災前の神戸」では、大木本さんが撮影した1960年代から90年代前半までの写真から、そのごく一部を選定して掲載している。タウン情報誌『月刊神戸っ子』にも協力していたようである。戦後復興を経て、高度経済成長と開発の波の中で移り変わっていく神戸の街、世相や生活・労働の一端を切りとるとともに、そこには震災によって壊れ、失われた風景の以前の姿もとどめられている。

第2章「阪神・淡路大震災7年間の記録」は、地震発生当日から2002年1月までの震災記録写真が主であり、震災文庫が公開している写真の中から選定した。この第2章はさらに4つのセクションに分けている。

第2章のⅠ「震災直後の街の変容と生活」は、地震発生当日から約2ヵ月間（1995年3月まで）について、大木本さんの足取りに即して、ある程度時系列的にまとめた。交通機関などの途絶によって制約された状況下にある2月中は、通勤路の須磨・長田周辺や職場がある旧居留地など三宮以西を中心に記録している。3月以降は鉄道の復旧とあわせて行動範囲が広がり、撮影地点も東部の灘や東灘へと広がっていった。

第2章のⅡ～Ⅳは地域別にまとめている。建造物や商店街・市場、住宅地などの被害やその後の解体・復旧、そこで生きる人々の生活の一場面を写している。趣味であった近代建築や石仏・石塔なども多く撮られており、なかでも旧居留地の近代建築群は撮影点数も群を抜いて多い。本写真集ではそのごく一部しか掲載できなかったが、被災後の推移も含めて近代建築史における重要な記録写真となっている。また、報道関係者としての機動力を活かし、取材先での空き時間に撮影している場合も多い。カメラクルーが写り込んでいる写真があるのもそのためだが、復興住宅の入居抽選会の写真（91頁）などは、報道関係者ならではの写真の一つである。

第3章「震災から10年、20年へ」は、震災10年目と震災20年目に大木本さんが再び被災地を歩いて撮影した写真を組み込みつつ、被災当時の写真も並べている。これについては節を改め、すぐ後で述べる。

｜ 阪神・淡路大震災10年と20年を撮る

大木本さんは震災10年目の2005年と、震災20年を迎える2014～2015年に再度まとまったかたちで被災地を写している。震災10年目には、知人が主宰する冊子への写真提供の話があったこともきっかけとなり、神戸港や兵庫運河、小野浜、ポートアイランド、須磨海岸・舞子海岸など臨海部を中心に約1,000枚を撮影している。芸術的要素の強い写真作品であるとともに、そこからは「復興」途上の姿も見て取れる。

震災20年目を迎える2014年から2015年にかけては、震災後の再開発や土地区画整理事業が進められた神戸市

域を中心に再び歩き、さらに1,000枚以上をカメラに収めている。特に震災復興再開発事業が実施された新長田駅南地区と六甲道駅南地区、土地区画整理事業が進められた兵庫区松本通、新長田駅北地区・御菅地区・鷹取地区、灘区の六甲道駅北地区（六甲町・森後町）・同西地区（琵琶町）、東灘区の森南地区を重点的に歩いた。ほかに旧居留地や三宮周辺なども歩いている。

震災後進められた再開発や区画整理は、震災10年の前後以降、事業が随時完了し節目を迎える。「復興」という名の変化は、人々を様々な局面に立たせることにもなった。街が整備される一方で、震災10年から20年にかけては、長く尾を引く震災による打撃が様々な課題を伴って顕在化してくる時期でもあった。大木本さんが何を撮り、何を思ったのかは、第3章とその所々に引用した大木本さんのコメント、ならびに「震災20年を迎えての手記」（136～137頁）を読んでもらいたい。

｜ 震災を撮るということ

大木本さんの記録写真をみるといくつかの特徴が挙げられる。まず、震災当初の被害状況のみならず、その後の過程を長期にわたり、かつ被災地の広範を記録していることである。同じ地点を継続的に撮る「定点観測」によって、震災による街の変化を今も知ることができる。また、俯瞰写真を意識的に撮っていることも挙げられる。被災地を「虫の眼」で見るとともに、職場があった朝日ビルをはじめ、ビルやマンション、歩道橋等の上から「鳥の眼」で写すことで、被災地を多面的にとらえている。報道カメラマンとしての視点がここに反映されているのかもしれない。それは、一人のカメラマンであり生活者である人間の眼を通した阪神・淡路大震災の記録であり、被災地の変遷史とも言える厚みをもっている。

震災後、大木本さんがこのような記録写真を撮り続けたのはなぜだろうか。後に大木本さんは、このことについて次のように語られた。

> ――私が写真を撮り出したのは、長年お世話になった神戸が一瞬のうちにこんな姿になって、これは復興できるんだろうかという疑問がありました。これは厳しくなるんじゃないかと。それでもあちこちに“負けてたまるか”という幟がいっぱい出たんですね、少しずつでも復興していくんだと。それで長年お世話になった神戸の姿を残すいうんかな、後になってそれを見ることによって本当の姿が見れる時が来るんじゃないかな、そういう気持ちも働きました。それで、日記を書くんでなくて、私が出来るのは写真を撮れることなんで、休みの日、会社の行き帰りを利用して、一枚写真で記録するということを始めました。
>
> （2014年11月5日、神戸大学文学部日本史演習の招待講義にて）

激変する街とそこでの人々の奮闘・苦悩を、大木本さんはどこまでも冷静に、そしてリアリスティックに記録し続けた。こうした姿勢は、フィルムカメラへのこだわりからも伝わってくる。

> ――（映画の仕事をしていたこともあり）いまだにフィルムをよう離さんのですよね。僕はどこまで写真というものを信じていいのか、デジタルでは疑問があって。だから今僕が撮っている写真はアンダーだったら暗くて、どうしようもない。ピントがぼけてたら直すこともできない。そのかわり、その時のある時間を切り取ったんだよという自負はあるわけなんですね。これは本物なんだという気持ちがあって。
>
> （2014年11月5日、神戸大学文学部日本史演習の招待講義にて）

今ではデジタルカメラが普及し、その技術も飛躍的に進歩した。撮影時点で地理情報を自動記録したり、画像処理で露光や色調も自由に調整できるし、合成も簡単にできる。しかし、それでも大木本さんは生涯、フィルムカメラにこだわり続け、その時どきの被災地のリアルな姿をとどめていった。そのフィルム写真と詳細な手書きの情報は、一人の人間の震災への向き合い方を示しているし、無機質と言えるほどの効率化と高度化が進む現在のデジタル社会にあって、記録を残すこととは本来何なのかを私たちに問いかけてもいる。

最後に、この写真集は大木本さんが写した阪神・淡路大震災を、私の眼を通して編集したものである。震災を直接経験していない私にとって、編集の作業は困難を極めた。泣く泣く掲載を断念した写真も多く、大木本さんの仕事をどこまで反映できたかは覚束無い。だが、震災25年を迎えようとする今日、阪神・淡路大震災をとらえ返し、継承していく上での一助となればと思う。

何度かお邪魔したご自宅での大木本さんの柔和な語り口が今も思い出される。心よりご冥福をお祈りします。

6400余名の犠牲者を出した、阪神、淡路大震災から20年
節目ともいうべき年を迎え、以前に写真を撮り歩いた被災地
に足を向けている。
とはいえ、加齢による足腰の劣えもあり思う程には動け
ない。はじめは20年の変遷を得た神戸の街で過去に
見えてなかったナーと気付く場所を探し、カメラを向けて
みようと考えていたのだが、思いのほかむつかしかった。

新聞紙上では神戸市民の44パーセントを占める人たちが震災
後に生れた若者、あるいは他の地域から転入してきた人たち
だと報じている。また、出会った年輩者の中には、震災につい
ては話をしたくない、もう忘れたいとの声もあり、受けた傷の
深さを改めて知らされた。

カメラを向けた街の展望は確かに大きく変貌している、焼失
した住宅地には新築の家屋が並び、道路や避難場所等の
整備も進んでいて確かに復興した街といえるだろう。しかし、
いずこにせよ マンション、高層ビルといった箱ものといわれる
建物が一気に増えている、世の中の移りかわり、災害後の
都市計画の産物か私にはわからないが、以前は地域ごと
にあり住民たちのコミニュケーションの場でもあった市場とか
魚屋、果物屋さんといった小売店舗が数を減らしている現実
はいなめない。

平成27年1月17日、20年目の慰霊のつどいが催された東遊園地
に出かけた。主催側の話では過去最高の人が集ったという。
用意された竹筒の燈籠は1.17と東日本大震災の3.11を
合せ、一万本であったという。手を合わせ犠牲者の冥福を祈る
人たちの途切れることがない長い列に、改めて時間の経過
だけでは癒されぬ被災者の心の傷を感じたし、環境や街
の姿は変っても本当の意味での復興はまだ道半ばと強
く思った。震災を語り伝える大切さの認識をもう一度
多くの人たちに持ってもらいたい、そう感じた20年目の命日
であった。

27年1月下旬

大木孝

コクヨ シヨ-110N (38×30)

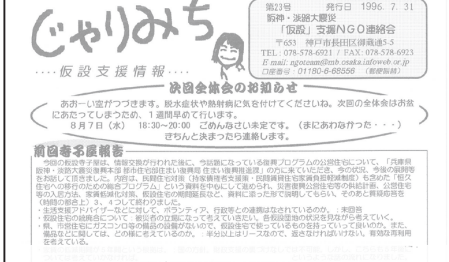
震災20年を迎えての手記（2015年1月下旬）

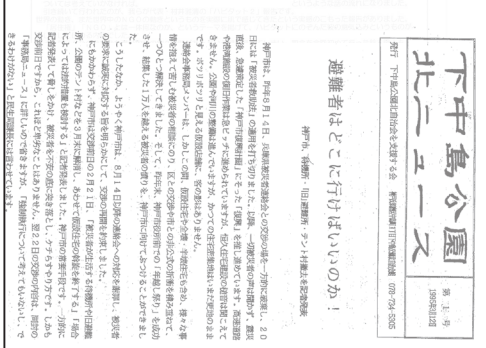
学生による震災資料展

草の根市民メディアからの発信

―「ミニコミ」から問う阪神・淡路大震災―

会　期：2020年1月16日（木）～2月4日（火）
会　場：神戸大学附属図書館社会科学系図書館2階
主　催：神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター
協　力：神戸大学附属図書館震災文庫、震災・まちのアーカイブ、阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター





開催趣旨

阪神・淡路大震災発生から今年で25年を迎えます。1995年当時、インターネットやSNSは今のようには発達していませんでした。地震でライフライン・情報網が絶たれ、行政機能が十全に機能しないなか、被災者へ情報を伝え共有するために、市民の活動のなかでうまれたメディアが“震災ミニコミ”です。

1995年は「ボランティア元年」とも呼ばれ、学生を中心に多くの人々が全国から救援に駆けつけました。震災以前から地域活動や市民運動などを進めてきた人たちも、その経験と人脈を活かして、様々な課題に取り組んでいきました。戦後の市民社会において阪神・淡路大震災は、個々人に根ざした行動が人々を支え、新たな社会関係をつくりだし、さらには国を動かしていく経験となりました。“震災ミニコミ”は当時のそうした草の根の多様な取り組みをつなぎ、それを今に伝えてもいます。本展示は震災発生後の情報伝達のあり方、震災においてミニコミが果たした役割、そして被災地で活動した人びとが取り組んだ課題に迫ろうとするものです。

この展示は文学部日本現代史演習の一環として、受講生6名が自らテーマを設定して震災資料の調査・研究を行い、展示資料を選定、解説を作成しています。阪神・淡路大震災を直接体験したことのない世代が震災をどのように認識し、どのように継承していくのか。本展示はこの課題を考えるためのささやかな取り組みでもあります。

本企画展にご協力いただいた関係各機関・団体の皆様に心より御礼申し上げます。

神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター
吉川圭太・富山仁貴

神戸大学文学部日本現代史演習受講生
跡部史浩・近藤大暉・下箱石響
武内秀樹・戸部愛菜・深谷健

「震災ミニコミ」とは

地震発生直後から被災した人々は生活に必要な情報を求めた。避難所や街に張り紙やビラがあふれるなか、被災地では被災者のための情報発信が始まり、ボランティアたちも自らの活動を発信した。マスコミ情報とくらべ配布範囲や対象は限定的だが、密度の濃い情報を載せた「震災ミニコミ」が被災地でうまれた。

当初は水や物資が手に入る場所、病院や店などの再開など生活情報の発信がメインだった。被災地での情報ニーズは日々刻々と変化し、当然ながらそれはミニコミ紙面にも反映されていく。

新学期などを控え、学生を中心とするボランティアが被災地から引き揚げていく1995年3〜4月は、ボランティア活動と震災ミニコミにとって一転機だった。活動の地元引継ぎが課題となり、ミニコミもまたその引継ぎ手を模索した。発行を継続できた場合もあれば、数号で廃刊となったものも少なくない。被災地の情報ニーズも、この時期は震災初期の生活上不可欠な情報から徐々に生活再建・復興に向けた情報や交流のためのイベント情報などが増えていく。ボランティア引き揚げと、この情報ニーズの変化という状況にうまく対応して情報発信できたかどうかも、震災ミニコミ存続に大きな影響を与えた。

また、震災ミニコミは被災地の〈小さな声〉をすくい上げ、社会に訴え、行政にもその声を届けていこうとする。この役割は、戦後市民運動のなかで果たしてきたミニコミの真骨頂でもある。

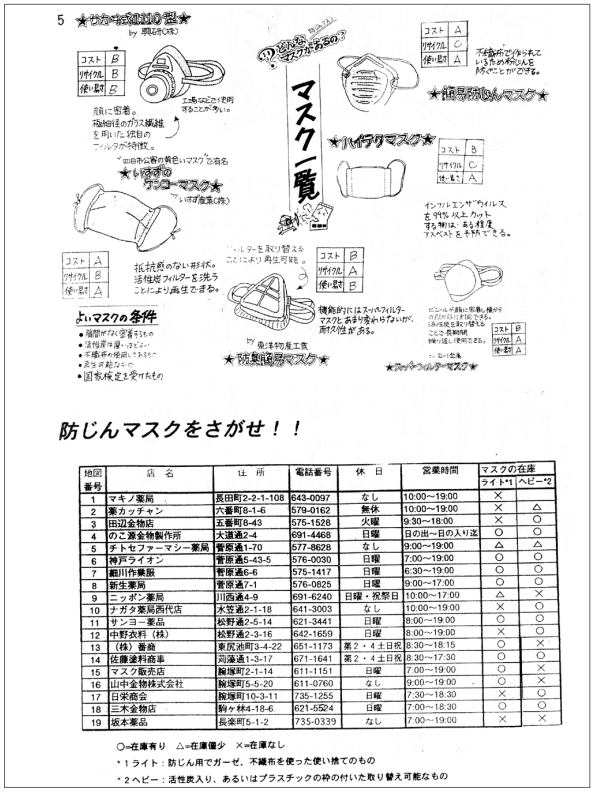
市民による〈小さなメディア〉の総称であるミニコミは、1960年代以降の市民運動・地域活動のなかで発生した。阪神・淡路大震災における「震災ミニコミ」の簇生は、そうした戦後の市民活動の流れと、「ボランティア革命」とも呼ばれる新たな状況が重なり合うなかで登場した。

紙に手書きやワープロ打ちされ、印刷され、配られていった震災ミニコミは、被災地内外での新たな社会関係の〈結節点〉となっていった。

情報ボランティアによる生活情報発信

ピースボート『デイリーニーズ』

国際交流を目的に1983年設立されたNGO「ピースボート」は、被災地での「かわら版」づくりを支援活動とした。東京から印刷機を運び入れ、長田の新湊川公園を拠点に生活情報紙「デイリーニーズ」を発行。ピースボートは、毎年「船内新聞」を発行する経験があった。



地元への活動引継ぎ

すたあと長田『ウィークリーニーズ』

新学期などを控え、多くのボランティアは3月末には被災地から引き揚げ、地元への活動引継ぎが課題に。ピースボートが発行していた『デイリーニーズ』は地元ボランティアに引き継がれ、週刊の『ウィークリーニーズ』となった。粉じん問題も精力的に取り上げている。

こうべ地震災害対策広報

第27号（随時発行）　1995年(平成7年)4月28日

発行：神戸市災害対策本部　☎322-5117～5122

一時使用住宅の常時募集

4月30日から先着順で受け付け

【募集対象者】
一時使用住宅入居資格者で避難所に避難している人
これまでに市が募集した一時使用住宅に契約した人は除く

【申し込み方法】
▶日時＝4月30日から
10：00～14：00
（ただし5月3～7日は休み）
▶場所＝市産業振興センター
（神戸ハーバーランド内）
▶必要書類＝①本人であることを確認できる書類・証書（運転免許証、健康保険証、年金証書、敬老優待乗車証、預金通帳など）②り災証明書（写し）③住民票（入居者全員分）④印鑑

【募集戸数】（4月27日現在）

市内(384戸)			
北区	藤原台	162戸	
	君影町	24	
西区	ハイテクパーク	183	
	北山台	15	
市外(921戸)			
大阪府	八尾	72戸	
	りんくうタウン	55	
加古川市	尾の上	145	
高砂市	米田	119	
	松波	90	
姫路	御国野	10	
	玉手	316	
	新白浜	114	
合計		1,305戸	

要事項を記入して郵送
【受付期間】5月10～14日（消印有効）
【入居者決定方法】申込者数が募集戸数を超えた場合、避難所に避難している人を優先し、次の順位に従って、各地域ごとに抽選で決定します
▶第1順位＝高齢者（60歳以上）だけの世帯、障害者（障害者手帳1・2級、療育手帳Aランク、精神障害者にあっては、障害年金1級受給者ならびに「障害の状況に関する証明書」の特別障害者）のいる世帯、母子世帯（子が18歳未満）
▶第2順位＝高齢者（65歳以上）のいる世帯、乳幼児（3歳以下）のいる世帯、妊婦のいる世帯、18歳未満の子供が3人以上いる世帯
▶第3順位＝病弱者（日常生活をいとなむうえで介助を必要とする者）
▶第4順位＝その他の世帯（上記3つの区分に当てはまらない世帯）
【抽選結果の発表】5月28日（日）
※発表場所は申込書参照

一時使用住宅の入居4次募集

避難所に避難されている方を優先します

申込書は5月10日(水)から各区役所・支所・出張所などで配布

【募集予定戸数】市内約3,500戸
【入居対象者】次のすべての条件を満たし、被災時に市内に住んでいた世帯（単身者を含む）
(1)自己の居住する住宅が焼失または倒壊し居住できなくなった世帯
(2)親族・知人等の住宅など、ほかに身を寄せる住宅のない世帯
(3)住宅を借りたり、購入ができない世帯
【使用できる期間】入居後6か月以内（ただし6か月を限度に更新可能）
【家賃】無料（ただし電気、ガス、水道の使用料および共益費などは入居者負担）
【申し込み方法】申込書についている所定のハガキに希望地域と必

第2次義援金の交付につきましては、受付期間・申請方法などの詳細が決まり次第、広報紙などを通じてお知らせしますので、しばらくの間お待ちください
●民生部給付係
☎322-5194

◆問い合わせは、市災害対策本部　民生部
一時使用住宅係(☎392－9860)へ。(9:00～19:00)

ファクスで最新の災害対策情報が取り出せます
FAX番号　078－360－0200
・FAXの受話器をとっておかけください
・全国どこからでも24時間取り出せます
・「こうべ地震災害対策広報」はメニューコード8です
第28号の発行は5月2日(火)の予定です

THÔNG TIN LIÊN QUAN ĐẾN VIỆC KHẮC PHỤC HẬU QỦA ĐỘNG ĐẤT CỦA TP KOBE

BẢN TIN SỐ 27　NGÀY 28/4/1995

こうべ地震災害対策広報　第27号

◎ *VỀ VIỆC TUYỂN VÀO Ở NHÀ TẠM THỜI (ĐỢT TUYỂN THƯỜNG KỲ)*

NHẬN ĐƠN TỪ NGÀY 30／4, ƯU TIÊN CHO NGƯỜI ĐẾN NỘP ĐƠN TRƯỚC

★ ***Đối tượng***

Những công dân có đầy đủ tư cách để có thể vào ở nhà tạm thời, hiện tại đang sống tại các nơi lánh nạn.

(Loại trừ các trường hợp đã làm hợp đồng thuê nhà tạm thời rồi.)

★ ***Cách làm thủ tục***

◇ *Thời hạn*: Từ ngày 30／4. 10h～14h (Nghỉ các ngày 3 đến ngày 7 tháng 5)

◇ *Địa điểm*: Kobeshi Sangyo Shinkou Senta (Tại Kobe Harborland)
神戸市産業振興センター（神戸ハーバーランド内）

◇ *Giấy tờ cần thiết*:

(1) Giấy tờ có thể chứng minh về bản thân (như bằng lái xe, sổ bảo hiểm sức khỏe ＜Kenko Hokenshou - 健康保険証＞, sổ Nenkin ＜Nenkin shousho - 年金証書＞, Thẻ đi xe ưu đãi dành cho người già ＜Keirou Yuutai Jyoshaken 敬老優待乗車券＞, sổ tiết kiệm) v.v..

(2) Giấy chứng nhận thiệt hại ＜Risai Shoumeisho - 罹災証明書＞ (bản chụp).

(3) Phiếu cư trú ＜Jyuminhyo - 住民票＞ (của những người sẽ vào nhập cư).

(4) Con dấu

★ ***Số lượng nhà*** (tính đến thời điểm ngày 27／4)

nội thành (384)			ngoại thành (921)		
Kita-ku	Fujiwaradai	162	Osaka-fu	Yao-shi	72
	Kimikagecho	24		Rinkuutaun	55
Nishi-ku	Haikekupaaku	183	Kakogawa-shi	Onoue	145
	Kitayamadai	15	Takasago-shi	Yoneda	119
				Matsunami	90
			Himeji-shi	Mikunino	10
				Tamate	316
				Shinshirahama	114
Tổng số				1,305 hộ	

多様な情報支援――多言語での情報発信

被災ベトナム人救援連絡会『被災ベトナム人救援ニュース』

震災によって外国人の多くは、「言葉の壁」に直面し、住宅問題や医療費問題、雇用問題が浮き彫りとなった。こうしたなか、被災外国人へ多言語で支援情報を発信するミニコミやコミュニティFMなどが市民の手ではじめられた。行政の発行する広報誌を多言語に訳し直して発信するなどの支援もなされた。

1996年11月15日発行　　本誌の内容について無断転載を禁じます。

市外・県外避難者ネットワーク　《第15号》

りんりん

発行：県外避難者支援全国ボラネット・りんりん
〒550　大阪市西区江戸堀1丁目24-12-10
TEL. 06-443-3808　FAX. 06-449-8204

兵庫県への要望（案）

1.県外避難の早急な実状調査
2.避難先の違いによる不公平な支援施策の是正
3.兵庫県に戻るための支援
4.事情があって今すぐ戻れない人への支援
5.阪神・淡路大震災復興基金に県外避難者支援の項目を

県への要望事項を確認

フォーラム後、初めての世話人会

去る10月17日、大阪市西区の街づくり支援協会でりんりん世話人会が行われ、県外避難者の自主団体として、地元行政に、今後どのような形ではたらきかけていくかが話し合われました。

民間賃貸住宅の家賃補助を県外避難者にも適用することや、復興住宅募集での公平な取り扱い等、県外避難者としての要求は常識的なものばかりです。現状の不公平さは、「属地主義」という行政の仕組みによるものといえます。一日も早くその不公平さを改めてもらうには、まず、兵庫県と神戸市が出資して設けた阪神・淡路大震災復興基金の中に県外避難者のための項目を作ることが必要と、中西事務局長から発言がありました。

そのためには、12万人とも15万人とも言われている県外避難者の実状把握が急がれます。さまざまな支援策とあわせ、兵庫県として県外避難の調査をするよう改めて申し入れることを確認しました。

県外避難者の切実な声を行政に伝えるために、りんりん世話人と行政との懇談の場を設けることも要望していきます。

（世話人会の話し合いを踏まえて、りんりん事務局・中西光子が県庁を訪問。その様子は2～3ページで）

お知らせ

新聞記事情報サービスをはじめました

りんりんアンケートで「被災地の新聞が見たい」と書かれた会員の皆さまには、今月から地元紙の切り抜きをお送りしています。ご希望の方は8ページをごらんください。

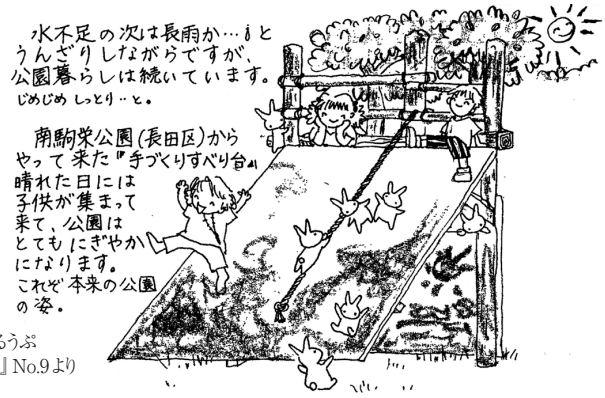
声を広げ、行政に届ける

街づくり支援協会『りんりん』

被災者の現状、支援制度や復興計画に対する様々な声を社会に広げ、行政に届けることもミニコミの重要な役割だった。「街づくり支援協会」は、県外避難者を支援し、行政に実態調査や支援制度拡充などを求めていった。

展示資料一覧

資料名	発行者・撮影者	年代	形態	所蔵先・所収
震災と情報・メディア				
張り紙で埋めつくされた神戸市役所玄関ホール（写真）	大木本美通	1995.2.5	パネル	神戸大学附属図書館震災文庫
芦屋市被害情報 広報あしや 地震災害情報	芦屋市災害対策本部	1995.1.18 1995.1.20 1995.1.25	パネル	芦屋市役所市長室広報課『阪神・淡路大震災の記録　震災から復興へ』（1998年）
『神戸新聞』1995年1月17日夕刊1面	神戸新聞社 共同通信社配信	1995.1.17	パネル	神戸新聞社『神戸新聞特別縮刷版　報道記録阪神大震災』（1995年5月）
『神戸新聞』1995年1月24日朝刊10面「がんばろう震災関連情報」	神戸新聞社	1995.1.24	パネル	同上
建物・家屋のフッキュウライン臨時電話帳	NTT	1995.3	実物	震災・まちのアーカイブ
JNAP［あげます・ください列島リレー］企画応募はがき	JNAP	1995	実物	震災・まちのアーカイブ
震災ミニコミがうまれる				
小野柄小学校避難所新聞　第1号	小野柄小学校避難所	1995.1.20	パネル	神戸市中央区役所『阪神・淡路大震災：中央区の記録』（1996年）
小野柄小学校避難所新聞　第3号	小野柄小学校避難所	1995.1.22	実物	人と防災未来センター
デイリーニーズ　第1号	ピースボート	1995.1.26	パネル	神戸大学附属図書館震災文庫
ピースボートなどが拠点にしていた長田区の新湊川公園（写真）	大木本美通	1995.2.18	パネル	神戸大学附属図書館震災文庫
こんなところでデイリーニーズは作られていた（イラスト）	ピースボート	（1995）	パネル	あらばき協働印刷『デイリーニーズ縮刷版』（1999年）
ウィークリーニーズ　vol.1 No.6	すたあと長田	1995.4.16	パネル	震災・まちのアーカイブ
りんりん　第15号	街づくり支援協会	1996.11.15	パネル	震災・まちのアーカイブ
Chuo Weekly　No.1	中央区ボランティア	1995.2.27	パネル	神戸大学附属図書館震災文庫
被災ベトナム人救援ニュース（こうべ地震災害対策情報第27号）	被災ベトナム人救援連絡会	1995.4.28	パネル	人と防災未来センター
震災・活動記録室「資料目録」	震災・活動記録室	1995	実物	震災・まちのアーカイブ
指定避難所としての学校				
廊下まで避難者や物資であふれかえった避難所（写真）	（灘区西郷小学校避難所）	1995.1.26	パネル	人と防災未来センター
だいひょうしゃかいぎだより　No.20	六甲小学校避難所	1995.2.28	パネル	人と防災未来センター
代表者会議だより　No.41	六甲小学校避難所	1995.5.2	実物	人と防災未来センター
六甲小学校の保健室で始まった診療（写真）	シェア=国際保健協力市民の会	（1995）	パネル	シェア=国際保健協力市民の会編『阪神大震災・医療ボランティア活動報告』（1996年）
六甲ステップ　第4号	六甲小学校ボランティア本部（アーユス関西）	1995.3.1	パネル	神戸大学附属図書館震災文庫
がんばろや！たかとり（鷹取中避難所通信）No.1	鷹取中学校避難所	1995.3.24	実物	震災・まちのアーカイブ



ちびくろ救援ぐるうぷ
『てんと村だより』No.9より

4

資料名	発行者・撮影者	年代	形態	所蔵先・所収
公園避難所 ―「指定外」の避難所として―				
芦屋市の津知公園テント村（写真）	兵庫県企画管理部知事室広報課	1995.2.21	パネル	人と防災未来センター
てんと村だより　No.9（イラスト）	ちびくろ救援ぐるうぷ	1995.7	パネル	震災・まちのアーカイブ
てんと村だより　附録	ちびくろ救援ぐるうぷ	1995.2頃	実物	震災・まちのアーカイブ
須佐野公園周辺マップ	ちびくろ救援ぐるうぷ	1995	パネル	神戸大学附属図書館震災文庫
本町公園避難所内の洗濯場（写真）		1995.3.20	パネル	人と防災未来センター
本町公園新聞　第1号	本町公園避難所	1995.2.24	パネル	人と防災未来センター
本町公園新聞　第10号	本町公園避難所	1995.5.7	実物	人と防災未来センター
下中島公園北避難所テント村全景（写真）			パネル	人と防災未来センター
下中島公園北ニュース　第17号	下中島公園北自治会を支援する会	1998.6.12	パネル	震災・まちのアーカイブ
JR 鷹取工場跡地近隣の皆様へ　チラシ	須磨区被災者懇談会	1999.3	パネル	人と防災未来センター
地震怒りのまつり　チラシ	“地震”怒りのまつり実行委員会	1996.11.15	パネル	神戸大学附属図書館震災文庫
復興住宅や小学校にかわったJR鷹取工場跡地（写真）	大木本美通	2014.9.15	パネル	神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター
すましんげんち　ポスター	しんげんち	1997	実物	人と防災未来センター
1998年地震夏まつり　うちわ	“地震”夏まつり実行委員会	1998	実物	人と防災未来センター
住まいの再建とコミュニティ				
神戸市西区の西神工業団地仮設住宅での夏祭り（写真）	大木本美通	1996.8.16	パネル	神戸大学附属図書館震災文庫
JR 線沿いの灘南仮設住宅（神戸市灘区灘南通5丁目）（写真）	大木本美通	1999.3.4	パネル	神戸大学附属図書館震災文庫
仮設の街・通信　No.4	もりくすを	1996.4.20	パネル	人と防災未来センター
仮設の街・通信　No.52	もりくすを	1998.4.10	パネル	人と防災未来センター
仮設の街・通信　No.23	もりくすを	1997.2.15	実物	人と防災未来センター
ポートアイランド第2仮設でのボランティア（写真）	（ポートアイランド第2仮設住宅）	1997.8.23	パネル	人と防災未来センター
じゃりみち仮設支援情報　創刊号	阪神・淡路大震災「仮設」支援NGO連絡会	1995.8.31	パネル	神戸大学附属図書館震災文庫
週末ボランティア・仮設支援ニュース　1999 年1月号	週末ボランティア	1999.1	パネル	人と防災未来センター
復興住宅の入居抽選会（写真）	大木本美通	1997.11.25	パネル	神戸大学附属図書館震災文庫
HAT 神戸で建設が進む復興住宅「灘の浜住宅」1・2番館（写真）	大木本美通	1998.7.2	パネル	神戸大学附属図書館震災文庫
完成した「灘の浜住宅」1・2番館（写真）	大木本美通	2001.9.11	パネル	神戸大学附属図書館震災文庫
灘チャレンジ2014パンフレット「“寸劇”借り上げ住宅問題」	灘チャレンジ実行委員会	2014	パネル	神戸大学附属図書館震災文庫
災害公営住宅第4次一元募集団地別周辺マップ	「災害公営住宅募集にあたっての情報提供」プロジェクト・ネットワーク	1997.10	実物	震災・まちのアーカイブ
「被災者」の断層からの声				
ふきのとう　第1号	震災で奈良に移った人の会	1996.5.10	パネル	震災・まちのアーカイブ
りんりん　第27号	街づくり支援協会	1997.11.15	パネル	震災・まちのアーカイブ
りんりん　第38号	街づくり支援協会	1998.10.15	実物	震災・まちのアーカイブ
命の瀬戸際にある仲間のために“冬の家”を開設しました　チラシ	神戸の冬を支える会	1995.12	パネル	神戸大学附属図書館震災文庫
神戸の冬を支える会が拠点とした中山手カトリック教会（写真）	大木本美通	1995.2.4	パネル	神戸大学附属図書館震災文庫
野宿支援・越年テント　チラシ	神戸の冬を支える会	1997.12	パネル	神戸大学附属図書館震災文庫
神戸の冬を支える会にゅうすれたー　第3号	神戸の冬を支える会	1997.3	実物	神戸大学附属図書館震災文庫
上筒井から　vol.2、3、8	神戸YWCA震災復興委員会	1998～2000	実物	震災・まちのアーカイブ

資料名	発行者・撮影者	年代	形態	所蔵先・所収
公的支援実現を求める声				
被災者支援の超党派法案実現をめざして三宮で座り込み行動（写真）	兵庫県保険医協会	1998.3.17	パネル	兵庫県保険医協会『兵庫保険医新聞』（1998年4月15日）
兵庫県公館に集められた「自然災害に対する国民的保障制度を求める」署名	大木本美通	1997.1.10	パネル	神戸大学附属図書館震災文庫
たまねぎ　5号Part2（1996年夏）	ザ・ボランティア'95	1996	パネル	震災・まちのアーカイブ
こうのとり　2000年11月号	「公的援助法」実現ネットワーク	2000.11	パネル	人と防災未来センター
こうのとり　1998年4月28日号外	「公的援助法」実現ネットワーク	1998.4.28	実物	人と防災未来センター
こうのとり　2000年2月号	「公的援助法」実現ネットワーク	2000.2	実物	神戸大学附属図書館震災文庫
阪神・淡路大震災被災者への公的支援実現住民投票　チラシ	阪神・淡路大震災被災者への公的支援実現住民投票実行委員会	1997.4.20～5.25	実物	人と防災未来センター
市民集会「井上ひさしvs小田実　二人の文学者が震災を語る」チラシ	被災者に公的援助を!!市民＝議員立法推進本部	1997.3.15	実物	神戸大学附属図書館震災文庫
「神戸に空港はいらん!」ステッカー	神戸大学学生震災救援隊	1998	実物	震災・まちのアーカイブ
公的支援要求の請願署名運動ゼッケン	全日本自治団体労働組合兵庫県本部		実物	人と防災未来センター
学生ボランティアと〈社会〉				
神戸大学学生震災救援隊の部室（写真）	跡部史浩	2019.12.23	パネル	個人蔵
神戸大学の体育館で避難生活を続ける人たち（写真）	前田耕作	1995	パネル	神戸大学附属図書館震災文庫
西灘公園のテント村にて生活者らと（写真）	神戸大学学生震災救援隊	1995	パネル	神戸大学学生震災救援隊
救援隊通信　vol.8「高羽地域型仮設住宅での活動レポート」	神戸大学学生震災救援隊	1995.8.28	パネル	神戸大学学生震災救援隊
救援隊通信　vol.1	神戸大学学生震災救援隊	1995.3.4	パネル	神戸大学学生震災救援隊
救援隊通信　vol.31	神戸大学学生震災救援隊	1999.3.13	パネル	神戸大学学生震災救援隊
QEN TIMES　vol.1	神戸大学学生震災救援隊	1995.11.17	パネル	神戸大学学生震災救援隊
神戸大学学生震災救援隊の会議（写真）	神戸大学学生震災救援隊	1995	パネル	神戸大学学生震災救援隊
QEN TIMES vol.1～6　往復書簡企画	神戸大学学生震災救援隊	1995～1996	パネル	神戸大学学生震災救援隊
1995年厳夜祭「地震フォーラム」チラシ	神戸大学厳夜祭実行委員会・神戸大学学生震災救援隊	1995	パネル	神戸大学学生震災救援隊
QEN隊通信　vol.30（挿絵"ふっこうって一体何"）	神戸大学学生震災救援隊	1998.12.27	パネル	神戸大学学生震災救援隊
QEN隊通信　vol.28「住民投票条例制定請願署名の受任者になってください（神戸空港を考える神大の会より）」	神戸大学学生震災救援隊	1998.8.25	パネル	神戸大学学生震災救援隊
QEN隊通信　vol.24「1997年厳夜祭　公的支援立法最前線告知」	神戸大学学生震災救援隊	1997.10.21	パネル	神戸大学学生震災救援隊
QEN隊通信　vol.26（挿絵"必要な支援を適切な法律と議論で"）	神戸大学学生震災救援隊	1998.5.11	パネル	神戸大学学生震災救援隊
神戸大学学生震災救援隊による「てらこや」授業風景（写真）	神戸大学学生震災救援隊	1995	パネル	神戸大学学生震災救援隊
神戸大学学生震災救援隊のミーティング（写真）	神戸大学学生震災救援隊	1995	パネル	神戸大学学生震災救援隊
閲覧コーナー				
救援隊通信／QEN隊通信	神戸大学学生震災救援隊	1995～1998	複写	神戸大学学生震災救援隊
QEN TIMES　vol.1～6	神戸大学学生震災救援隊	1995～1996	複写	神戸大学学生震災救援隊
記録室通信　準備号～最終号	震災・活動記録室	1995～1998	実物	震災・まちのアーカイブ
瓦版・なまず　No.1～30	震災・まちのアーカイブ	1998～2015	実物	震災・まちのアーカイブ
「someday, for somebody いつかの、だれかに」展"棚へ―〈未来〉の配達のために―"展示資料	震災・まちのアーカイブ	2005	実物	震災・まちのアーカイブ

主要参考文献

【 】内は神戸大学附属図書館震災文庫の請求記号です。震災文庫で閲覧できます。

【 】内に＊が付されているものは震災文庫がデジタル公開している資料です。自宅などでもインターネットを通じて閲覧できます。
神戸大学附属図書館震災文庫　http://www.lib.kobe-u.ac.jp/eqb/index.html

神戸大学〈震災研究会〉編『阪神大震災研究1　大震災100日の軌跡』（神戸新聞総合出版センター、1995年）【震災−1−47】

神戸大学〈震災研究会〉編『阪神大震災研究2　苦闘の被災生活』（神戸新聞総合出版センター、1997年）【震災−1−47】

神戸大学〈震災研究会〉編『阪神大震災研究3　神戸の復興を求めて』（神戸新聞総合出版センター、1997年）【震災−1−47】

神戸大学〈震災研究会〉編『阪神大震災研究4　大震災5年の歳月』（神戸新聞総合出版センター、1999年）【震災−1−47】

神戸大学〈震災研究会〉編『阪神大震災研究5　大震災を語り継ぐ』（神戸新聞総合出版センター、2002年）【震災−1−47】

兵庫県震災復興研究センター編『大震災と人間復興』（青木書店、1996年）【震災−4−357】

塩崎賢明・西川榮一・出口俊一・兵庫県震災復興研究センター編『大震災10年と災害列島』（クリエイツかもがわ、2005年）【震災−5−580】

塩崎賢明・西川榮一・出口俊一・兵庫県震災復興研究センター編『大震災15年と復興の備え』（クリエイツかもがわ、2010年）【震災−4−1093】

塩崎賢明・西川榮一・出口俊一・兵庫県震災復興研究センター編『大震災20年と復興災害』（クリエイツかもがわ、2015年）【震災−4−1833】

外岡秀俊『地震と社会（上・下巻）』（みすず書房、1997・1998年）【震災−16−403】

神戸新聞社『神戸新聞の100日』（プレジデント社、1995年）【震災−14−31】

小城英子『阪神大震災とマスコミ報道の功罪 ―記者たちの見た大震災―』（明石書店、1997年）【震災−14−91】

住民図書館『ミニコミ総目録』（平凡社、1992年）

丸山尚『ローカル・ネットワークの時代 ―ミニコミと地域と市民運動―』（日外アソシエーツ、1997年）

住民図書館『阪神・淡路大震災 ―ミニコミは何を伝えたか―』（住民図書館、1997年）【震災−1−233 】

人と防災未来センター資料室編『阪神・淡路大震災における住まいの再建 ―論説と資料―』（人と防災未来センター、2012年）【震災−1−461】

板垣貴志・川内淳史編『阪神・淡路大震災像の形成と受容 ―震災資料の可能性―』（岩田書院、2011年）【震災−15−311】

震災・まちのアーカイブ『アーカイブ前史』（震災・まちのアーカイブ、2003年）【震災−15−227】

震災・まちのアーカイブ『サザエさんたちの呼びかけ ―阪神大震災・瓦版なまず集成1998−2008―』（震災・アーカイブ、2008年）【震災−6−403】

震災・まちのアーカイブ『サザエさんたちの問いかけ ―阪神大震災・瓦版なまず集成2009−2017―』（震災・まちのアーカイブ、2018年）【震災−6−548】

［記憶・歴史・表現］フォーラム編『someday, for somebody いつかの、だれかに　阪神大震災・記憶の〈分有〉のためにミュージアム構想｜展　2005冬 神戸』（［記憶・歴史・表現］フォーラム、2005年）【震災−15−239＊】

大門正克『歴史への問い／現在への問い』（校倉書房、2008年）

荒川章二『日本の歴史第16巻　豊かさへの渇望』（小学館、2009年）

伊丹市立博物館編『阪神・淡路大震災　伊丹からの発信（本文編）』（伊丹市立博物館、2012年）【震災−15−346】

広原盛明『震災・神戸都市計画の検証』（自治体研究社、1996年）【震災−4−163】

池田清『神戸都市財政の研究』（学文社、1997年）【震災−4−828】

本間正明・出口正之『ボランティア革命』（東洋経済新報社、1996年）【震災−7−64】

震災から学ぶボランティアネットの会「KOBE」の検証運営委員会編『物資が来たぞう!!考えたぞう!!』（震災がつなぐ全国ネットワーク、1998年）【震災−7−263】

とちぎボランティア情報ネットワーク・曹洞宗国際ボランティア会・ハートネットふくしま編『ボランティアが来たぞう!!考えたぞう!!』（震災がつなぐ全国ネットワーク、1999年）【震災−7−263】

KOBEの検証「情報編」編集委員会編『情報があるぞう!!考えたぞう!!』（震災がつなぐ全国ネットワーク、2002年）【震災−7−263】

「法律編」編集委員会編『法律って何だ？考えたぞう』（震災がつなぐ全国ネットワーク、2004年）【震災−7−263】

大分県ボランティア・市民活動センター編『避難所のこと考えたぞう!』（震災がつなぐ全国ネットワーク、2007年）【震災−5−712】

震災がつなぐ全国ネットワーク編『災害ボランティア文化』（震災がつなぐ全国ネットワーク、2010年）【震災−7−557】

岩崎信彦ほか編『阪神・淡路大震災の社会学（全3巻）』（昭和堂、1999年）【震災−6−211】

柏原士郎・上野淳・森田孝夫『阪神・淡路大震災における避難所の研究』（大阪大学出版会、1998年）【震災−5−299】

シェア=国際保健協力市民の会『阪神大震災・医療ボランティア活動報告』（シェア=国際保健協力市民の会、1996年）【震災−10−353＊】

ドキュメント・アイズ『すきなんやこの町が（ビデオ資料）』（1996年）【震災−5−114】

相澤亮太郎「阪神・淡路大震災におけるテント村の形成と消滅—災害後に“住み残る”ことの困難」（『兵庫地理』52号、2007年）【震災−5−v622＊】

塩崎賢明『住宅復興とコミュニティ』（日本経済評論社、2009年）【震災−6−419】

塩崎賢明『復興〈災害〉』（岩波新書、2014年）【震災−6−495】

相川美和子・増沢康男『それでも未来へ —「阪神・淡路大震災」復興住宅単身高齢者へのききとり』（報光社、2013年）【震災−7−604】

市川英恵『22歳が見た、聞いた、考えた「被災者のニーズ」と「居住の権利」—借上復興住宅問題—』（クリエイツかもがわ、2017年）【震災−6−531】

市川英恵『住むこと生きること追い出すこと —9人に聞く借上復興住宅—』（クリエイツかもがわ、2019年）【震災−6−553】

外国人地震情報センター編『阪神大震災と外国人』（明石書店、1996年）【震災−6−54】

松本由隆『市民自治と市民防災』（つげ書房新社、2003年）【震災−6−325】

神戸YMCA 震災10年を考えるプロジェクト『震災10年　地域とともに』（神戸YWCA、2005年）【震災−7−511＊】

片山善博・津久井進『災害復興とそのミッション —復興と憲法—』（クリエイツかもがわ、2007年）【震災−2−100】

津久井進『大災害と法』（岩波新書、2012年）【震災−2−111】

津久井進ほか著、兵庫県震災復興研究センター編『「災害救助法」徹底活用』（クリエイツかもがわ、2012年）【震災−2−107 】

小田実『被災の思想難死の思想』（朝日新聞社、1996年）【震災−16−239】

小田実『これは「人間の国」か —西方ニ異説アリ—』（筑摩書房、1998年）【震災−4−526】

市民＝議員立法実現推進本部、山村雅治『自録「市民立法」—阪神・淡路大震災　市民が動いた!—』（藤原書店、1999年）【震災−2−64 】

早川和男・井上英夫・吉田邦彦編『災害復興と居住福祉（居住福祉研究叢書第5巻）』（信山社、2012年）【震災−6−462】

出口俊一『震災復興研究序説 —復興の人権思想と実際—』（クリエイツかもがわ、2019年）【震災−4−1913】

吉川圭太・神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター編『阪神・淡路大震災を撮る—大木本美通追悼写真集—』（神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター、2019年）【震災−1−522】

震災復興調査研究委員会編『阪神・淡路大震災復興誌』1〜10巻（21世紀ひょうご創造協会／阪神・淡路大震災記念協会、1997〜2004年）【震災−4−458】

阪神・淡路大震災兵庫県災害対策本部『阪神・淡路大震災兵庫県の1ヵ月の記録』（兵庫県、1995年）【震災−4−41＊】

兵庫県知事公室消防防災課『阪神・淡路大震災　兵庫県の1年の記録』（兵庫県、1996年）【震災−4−367＊】

阪神・淡路大震災神戸市災害対策本部『阪神・淡路大震災神戸市の記録1995年』（神戸都市問題研究所、1996年）【震災−4−157＊】

神戸市民生局『兵庫県南部地震神戸市災害対策本部 民生部の記録』（神戸市民生局、1996年）【震災−4−265＊】

神戸市中央区役所地域福祉課『阪神・淡路大震災—中央区の記録—』（神戸市中央区役所、1996年）【震災−4−309＊】

芦屋市役所市長室広報課『阪神・淡路大震災の記録　震災から復興へ』（芦屋市役所、1996年）【震災−4−327＊】

兵庫県都市住宅部『甦るまち・住まい』（兵庫県都市住宅部、1997年）【震災−4−410】